

## 秋期特別展『黒潮の海に糧をもとめて』

9月29日から始まった紀伊風土記の丘秋期特別展は『黒潮の海に糧をもとめて』と題するもので、紀伊を中心とした海に暮らす人々の古墳時代の生活にスポットを当てた展示です。

その具体的な内容は、まず概説的な部分として、第Ⅰ章「黒潮の海に糧をもとめて」では、古墳時代の海の民と黒潮について紹介します。古墳時代の船では、海の民が用いた船について様々な出土資料、さらには描かれた船や魚を見ることにしました。漁撈生活の生業では、漁具と漁法について、たこ壺漁、製塩などを概観します。

第Ⅱ章は、紀伊半島と淡路島の海の民のコーナーです。ここでは、紀伊半島西部域の紀淡海峡や田辺湾周辺地域、紀南地域、さらには泉南、淡路地域の遺跡について紹介します。まず紀北地域では加太地域の遺跡、とくに西庄遺跡（和歌山市）を中心に地ノ島遺跡（有田市）、鷹島遺跡（広川町）などの出土遺物を展示紹介します。

紀中地域では、尾ノ崎遺跡（御坊市）、中村地区遺跡（同市）、秋葉山1号墳（同市）、大目津泊Ⅰ遺跡（みなべ町）、とくに製塩土器を副葬する中村1号墳と秋葉山1号墳古墳に注目です。紀南地域では、磯間岩陰遺跡（田辺市）、古目良岩陰遺跡（田辺市）、岩屋谷岩陰遺跡（田辺市）の岩陰遺跡と日向浦遺跡（白浜町）、オリフ古墳（白浜町）、上ミ山古墳（すさみ町）、笠嶋遺跡（串本町）、下里古墳（那智勝浦町）からの出土遺物を中心に紹介します。

泉南地域では小島東遺跡（大阪府岬町）、小島北磯遺跡（大阪府岬町）の製塩遺跡、淡路島の富島遺跡と貴船神社遺跡では製塩遺跡とタコツボ漁に関連する遺物、鎧崎古墳群と沖ノ島古墳群では漁撈関連遺物を展示しています。

第Ⅲ章は、志摩・三浦・房総半島の海の民です。志摩半島ではおじよか古墳について紹介します。この古墳は古墳時代中期ごろに築造されたもので北部九州及び有明海沿岸地域の特徴をあわせ持つ古墳と考えられ、過去の調査により銅鏡、半球形飾り金具、竪櫛、勾玉をはじめ短甲、刀、剣、鉾、鏃などが出土し、鉾は朝鮮半島大伽耶に系譜があるとされています。また玄室内からは埴製枕が出土しています。古墳内からは漁撈関連遺物は見つかっていませんが、倭王権や朝鮮半島との関係を示す遺物が大量に出土していることから被葬者が海上交通を含めた広いネットワークを持つ地域首長と考えられています。

このほか志摩地域では地蔵貝塚の出土遺物の紹介があります。

また、三浦半島地域（神奈川県三浦市）では大浦山洞穴遺跡、海外洞穴遺跡、浜諸磯遺跡を紹介します。とくに大浦山洞穴遺跡の右洞の1号墓には石槨状の施設があり、内部に大型アワビやサザエが敷き詰められ、その上に人骨と大型品を含む4点の管玉の出土を確認しています。この被葬者は貝を中心に漁撈に従事した人物と考えられています。海外洞窟遺跡からは鳴鏑や鹿角製複合釣り針が出土し、紀伊地域との共通性が見られます。このほか浜諸磯遺跡ではカツオ釣り針が出土しています。

房総半島（千葉県館山市）では、大寺山洞穴遺跡があります。この遺跡は、三つの海蝕洞穴内にあり、第1洞が墓域として利用され、丸木舟を棺とした舟葬が見られ、その数は12基を数え、時期は5世紀前半から7世紀後半にまで及んでいます。そのほか第3洞から土器や碧玉製管玉、直弧文が刻まれた鹿角製刀剣装具片が出土しています。

第IV章は、海の民とその社会です。さらに王権・地域首長と海をテーマとして薨屋北遺跡（大阪府四條畷市）、松崎遺跡（愛知県東海市）、西庄遺跡（和歌山市）それぞれの塩生産、漁撈、さらに地域首長、王権とのかかわりを考えます。

また各地の研究者にお願いした特別寄稿5編を加えた展示図録もあります。併せて期間内には講演会、連続講座も用意されています。皆様の参加をお待ちいたしております。

最後になりましたが本特別展示に際し、種々ご協力、御教示いただいた方々に感謝いたします。